

S SERIES

取扱説明書



S2V

S3H

S3V

S5H

S5V

The logo consists of a cluster of small white dots arranged in a roughly circular pattern, with a few dots extending outwards to form a tail-like shape.

ADAM

お買い上げいただきありがとうございます!

この度はADAM Audioの新製品、S Seriesのモニターをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。何年にわたる研究開発の成果であるS Seriesは、プロのオーディオユーザー向け精密器具メーカーのADAM Audioの確立された評判を基盤として、オーディオ制作用に音楽性に富みきわめて正確なリファレンスマニタリングを、可能な限り最高の水準で提供するように設計されています。

本取扱説明書はスピーカーの接続、据付および使用開始に役立つもので、お客様の作業環境に最も適した調整方法を説明しています。また、ユーザーが新しいモニターの据え付けを行う際に遭遇する、最も頻繁に発生する問題の解決方法も解説しています。参照用にメーカーの連絡先情報および詳細な技術仕様も記載されています。

解決できない問題が発生した場合や、本取扱説明書に解決策が記載されていない質問がある場合は、お近くのADAM Audioディーラーに連絡するか、ベルリンに所在する弊社のサポートチームまでメールで (support@adam-audio.de) お問い合わせください。弊社では、常に親しみやすくお客様のお役に立てるサービスの提供を誇りにしています。

新発売のS Seriesモニターで、長年にわたる素敵リスニング体験を存分にお楽しみください。

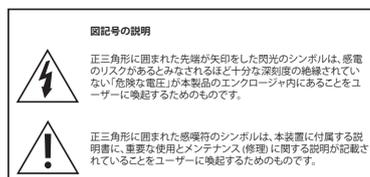
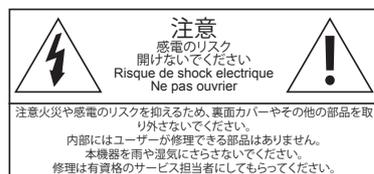
ADAM Audioチーム一同

目次

	ページ
お買い上げいただきありがとうございます!	1
目次	2
1.安全上の重要事項	3
2.ADAM AUDIOを選ぶ理由	5
3.S SERIESについて	5
4.接続	6
5.使用開始	7
6.最適なスピーカーの配置を達成するために	8
7.スピーカーの最終調整の概要	10
8.S SERIESのDSP機能詳細	11
9.トラブルシューティング	19
10.メンテナンス	20
11.輸送	20
12.環境情報	21
13.EU適合宣言	21
14.保証条件	22
15.技術データ	23

1.安全上の重要事項

システムの設定に取りかかる前に、下記の安全上の重要事項をお読みください。本取扱説明書は今後の参照用に保管しておいてください。警告に留意し、指示に従ってください。



-  **注意：感電の危険を減らすため、スピーカーを開けないでください。内部にはユーザーが修理できる部品はありません。修理は有資格のサービス担当者にしてもらってください。**
-  **本製品、ならびに接続されるすべての延長コードは、本製品に同梱されているものと同様に、アース端子付きの3極AC電源コードで終端処理されていなければなりません。感電の危険を防止するため、3極すべてが必ず使用されていなければなりません。**
-  **ヒューズは、決して指定された値やタイプ以外のものに交換しないでください。ヒューズは決してバイパスさせないでください。**
-  **指定電圧が、使用する供給電源の電圧と一致していることを確認してください。そうでない場合はスピーカーを電源に接続しないでください。お近くの販売店か全国展開の販売代理店にお問い合わせください。**
-  **ケーブルの接続や取り外しを行う場合、またはコンポーネントの清掃を行う場合は、その前に必ずシステム全体の電源を切ってください。**
-  **AC電源から完全に切断するには、電源をコンセントから抜いてください。モニターは、コンセントに簡単に手が届くように電源の近くに据え付け、必要な場合はデバイスを容易に切断できるようにしてください。**
-  **電源コードが踏まれたり、特にそのプラグ、コンセントおよび器具からの出口部分が挟まれることがないように保護してください。**
-  **雷雨の発生時や長期にわたり使用しない場合は、器具をコンセントから外してください。電気機器は子供の手の届かない所に配置してください。**
-  **本製品を雨や湿気にさらさないでください。また、決して内部を何らかの液体で濡らさないでください。また、決して本ユニットに直接液体をかけたり、こぼさないでください。液体の入った物体（花瓶など）をスピーカーの上に置かないでください。**
-  **メーカー指定もしくは本体と併せて販売されるスタンドや三脚、ブラケット以外は使用しないでください。台車に乗せてスピーカーを移動する際は、怪我をしないように気をつけ、台車の荷重のバランスが偏らないようにしてください。**

-  必ず点検したケーブルを使用してください。不良のケーブルはスピーカーを損傷する恐れがあります。そのようなケーブルは、様々な種類のノイズやハム、パチパチ鳴る雑音のよくある原因です。
-  オーディオコンポーネントの掃除に引火性または可燃性の化学製品を決して使用しないでください。
-  据え付けはメーカーの説明書に従って行ってください。
-  本製品を極度の高温や低温に晒さないでください。本製品は爆発性雰囲気では決して使用しないでください。
-  高音圧レベルは聴覚に悪影響を及ぼす可能性があります。大音量での使用時には、スピーカーに近づかないでください。
-  振動板によって磁場が生じることにご注意ください。磁氣的に敏感な物はスピーカーから少なくとも0.5m離すようにしてください。
-  壁との間に少なくとも100mm [4"] の間隔を確保することで十分な冷却を維持するため、スピーカーの後ろで空気が自由に流れることができるようにしてください。
-  火のついたロウソクなどの裸火が使われるものは、スピーカーの上に置かないでください。
-  この器具は水の近くでは使用しないでください。
-  掃除には乾いた布を使用してください。
-  ラジエーターや熱気の換気口、ストーブ、その他の [アンプを含む] 発熱する装置など、熱源の近くにスピーカーを据え付けしないでください。
-  接地プラグのアース線は取り外さないでください。接地プラグにはライブとニュートラルの端子があり、これに加えて設置用の3つ目の端子も安全のために含まれています。付属のプラグがお使いのコンセントのソケットに合わない場合は、電気技師に相談してソケットを交換してもらってください。
-  メーカーによって指定された取付品／付属品以外は使用しないでください。
-  すべての修理は有資格のサービス担当者にしてもらってください。修理は、例えば電源コードやプラグが破損したり、機器に液体がこぼれたりその上に何か落ちたなど、機器に何らかの損傷が生じた場合や、機器が雨や水分にさらされたり、正常に動作しない場合、機器を落とした場合に必要となります。

2.ADAM AUDIOを選ぶ理由

1999年にベルリンで創業以来15年以上にわたり、ADAM Audioはプロのオーディオ市場向けのきわめて精確なリファレンススピーカーのメーカーとして、高い評判を築いてきました。たちまち注目を浴び、21世紀初頭に成功と成長を遂げたADAM Audioは今日、世界有数のプロデューサー、オーディオエンジニアやミックスエンジニアが働く最人気のスタジオで使用される、高い評価の製品を製造しています。

ADAM Audioのスピーカー製品は、キャビネット製作、電力増幅、およびドライバー設計の分野におけるサウンドエンジニアリングの原則と技術革新に基づいています。この度、「ひだ」状のリボンで高いスルーレートを実現する確立されたツイーターコンセプトが、高パフォーマンスで極めて精確なART、X-ARTに加えてS-ARTにも搭載され、トレブルドライバーが改良されました。弊社は、精密ツールの製造と先進的な工業デザインの領域において高い称賛を浴びているドイツの伝統遺産への貢献者と自認しており、そのことを誇りにしています。

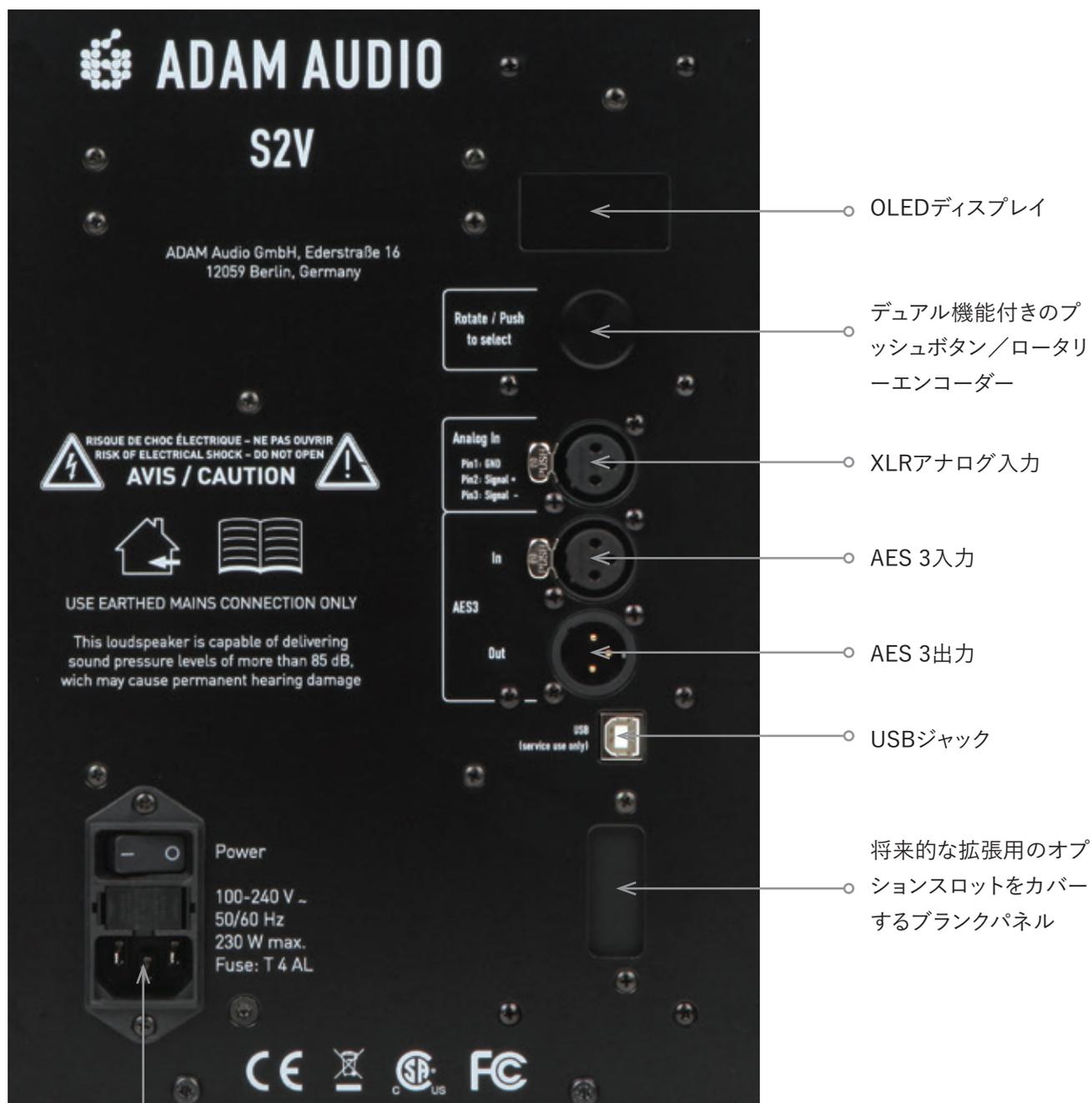
3.S SERIESについて

ADAM Audioを代表する、5機種構成の新しいスピーカー製品群となるS Seriesには、電気音響学と機械工学の分野における多数の技術的イノベーションのほか、よりすぐれた製品を開発するためにリファレンスマニターのコンセプトを一から見直した取り組みの成果がすべて反映されています。完全に刷新されたベースとミッドレンジドライバー、新しいウェーブガイド、ADAM Audioのユニークな「ひだ」状リボンの高周波ドライバーの製造公差の厳格化に加えて、デジタル接続性と新開発された先進的DSPエンジンといった特徴があります。ADAM Audio製スピーカーの既存のユーザーにはおなじみのキャビネットとベースリフレックス型ポートさえもが、完全に設計し直されました。既製のスピーカーコンポーネントを使わずにベルリンでカスタム開発されたこれらのスピーカーは、妥協を許さず、優れたダイナミック応答、使用時の高度な柔軟性、そして透き通るようなクセのないサウンドを実現することで、オーディオのプロフェッショナルなら欠かせない必需品となっています。

現時点では、当シリーズはニアフィールドモニターのS2V、より大型のS3VとS3H、そして最大のS5VとS5Hによって構成されています。「H」はスピーカーが横置き型として、「V」は縦置き型として設計されていることを表しています。

4. 接続

S Seriesのモニターではあらゆる性能や柔軟性が提供されているにもかかわらず、その設定はきわめて簡単です。必要とされる唯一の選択は、ドライバーにデジタル入力を使用するか、従来のアナログ信号入力を使用するかを選択だけです。この選択は、S SeriesのDSP設定 [11ページを参照] へのアクセスを可能にする、背面パネルにあるOLEDディスプレイと、その横にあるデュアル機能付きのプッシュボタン／ロータリーエンコーダーを通じて行われます。



IEC電源端子

標準的なIEC電源端子に加えて、シンプルなS Seriesの背面パネルには、従来型のAES XLRアナログ入力端子とAESデジタルInput (入力)、Thru (スルー) 端子 [後者は複数のスピーカーが同一のシグナルを使って駆動される複数チャンネルアレイのためのもの] があります。また、内蔵ソフトウェアのアップグレードを行ったり、コンピューター上でのリモート設定ソフトウェアの使用を可能にするUSBジャック、RJ45端子を2個接続できる将来的な拡張性のオプションを提供するOptionsスロットを覆うブランクパネルが搭載されています。

注意:デジタル接続には、必ずAES/EBUとの互換性のあるシールドされたツイストペアケーブルを使用してください。

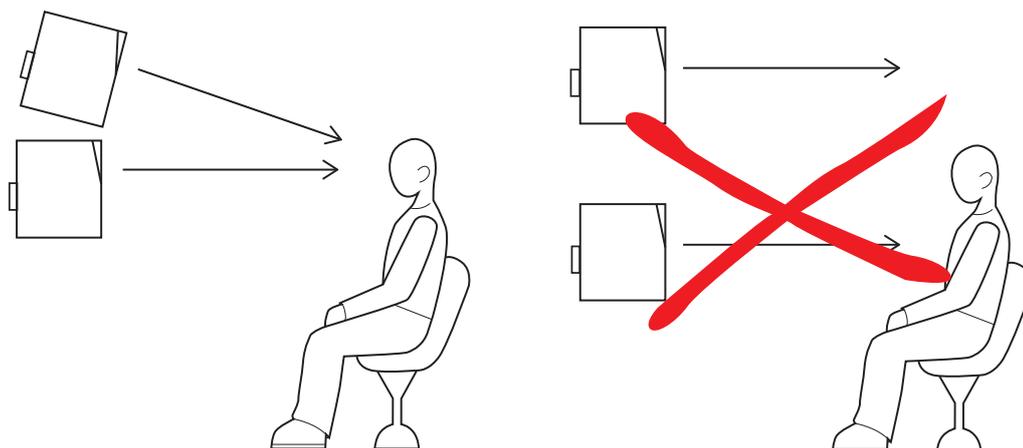
5.使用開始

新しいスピーカーを使い始める前に、梱包材から取り出し、所定位置に配置後1時間ほどそのままにして、リスニング環境の周囲温度に慣れさせてください。S Seriesスピーカーは、堅牢で安定した表面で運用することをお勧めいたします。最適な配置については、ページ8を参照してください。また、最適な性能を引き出すには、工場出荷時の設定状態にあるリファレンスモニターを「ブレイク・イン (慣らし)」させるため、継続的に数時間使用する必要があることにご注意ください。

スピーカーが音源に接続されているものの電源がオフになっていて、モニターへの音声は最小限まで下げられた状態で、同梱の標準IECケーブルを使ってアンプをAC電源に接続してください。S Seriesのスピーカーのスイッチモード電力増幅器は、100~240V ACの電圧と50/60Hzの電源周波数の範囲に属する世界各地の電源に対応しているため、変圧器の使用や加熱について心配せずにモニターを電源につなぐことができます。接続後はスピーカーに電源を入れてオーディオの再生を開始し、徐々に音源の出力レベルを上げていきます。するとS Seriesのスピーカーから音声が聞こえ始めるはずですが、音声がでない場合は、19ページのトラブルシューティングの項を参照してください。

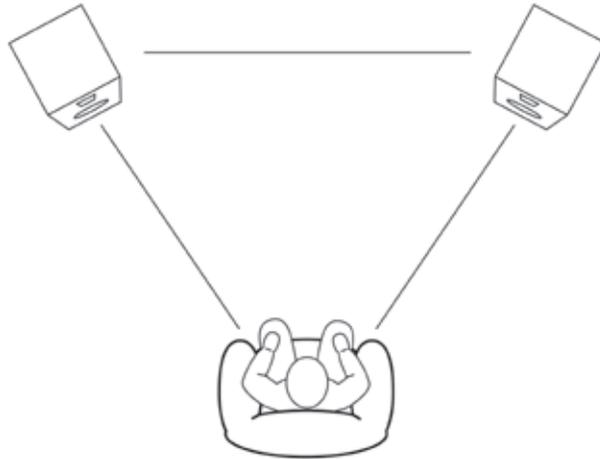
6.最適なスピーカーの配置を達成するために

お使いの部屋で、望ましくない反射音や部屋のモードによる最悪の影響が妥当な程度まで音響的に処理されていることを前提とする限り、スピーカーの配置で考慮すべき要素は常識的なものですが、それでも従うべき基本的な点がいくつかあります。



- [配置がそれほど重要ではないサブウーファーを除き、] すべてのスピーカーがお互いに垂直方向に同レベルになるようにし、ツイーターの高さがほぼ耳の高さと同じになるようにしてください。空間の制約によりスピーカーをより高いまたは低いレベルに配置する必要がある場合は、高さの違いに合わせて傾けるべきですが、15度以上の傾斜角度は回避すべきです [図を参照]。また、ミキシングコンソールやその他の大きなスタジオ機材からの反射を生じさせるような角度も回避すべきです。
- モニターが部分的または完全に遮られないようにしてください。スピーカーが明確に視線にあるようにしてください。これにより、スピーカーと自分の耳の間を遮るものが何もないことも確認できます。
- それぞれのモニターは、低域の音声の正確なモニタリングに悪影響を及ぼす反射を最低限に抑えるため、一番近くにある壁から最低でも400 mm [16インチ] は離すようにしてください。2つの反射面がお互いに近距離にあると、望ましくない反射により低域の音声に悪影響が及ぶ可能性がさらに大きくなるため、可能ならば、同一の理由から、部屋の隅にスピーカーを配置するのは避けてください。

→ ステレオ音声のオーディオ制作では、正三角形の二端に2台のスピーカーを配置した状態で、耳をできるだけもう一端の近くに位置するようにしてください [下を参照]。



→ サラウンド音声の制作のための厳密かつ理想的なスピーカーの配置は、使用するチャンネルの数 [したがってスピーカーの数] および、プロデュースするオーディオが音楽用か映画用かによって左右されます。さまざまなオーディオフォーマットや応用のための理想的なスピーカーの配置に関する国際電気通信連合の詳細な推奨内容は、同連合のウェブサイト www.itu.int を参照してください。しかし、一般的なガイダンスとして、ステレオ用配置と同様に、a] 後方からの反響を最低限に抑えるためすべてのスピーカーが最も近くの壁から少なくとも400 mm [16インチ] 離れ、b] 可能な限りリスナーの耳に向かって配置された、左右対称のリスニングポジションをお薦めします。

7.スピーカーの最終調整の概要

S Seriesのスピーカーの正しい配置が済んだら、個人的なオーディオの好みや特定のモニタリング環境に適合するように周波数特性を若干調整してみるといいかもしれません。すべてのプロフェッショナルスタジオでは、新しいリファレンスモニターの据え付け時によくチューニングやボイシングと呼ばれるこのプロセスが実施されます。各部屋の音響効果には若干の差異があるため、望ましくない反響を除外するようカスタム設計され、高水準で建てられた音響処理済みの部屋でも、最適なスピーカーの聞こえ方がどのようなものであるかについての考え方は、各ユーザーによって少しずつ異なるものです。

注意:内蔵のS Series EQによるボイシングの調整は、室内におけるモニターの全体的なサウンドに著しく影響するため、慎重に行う必要があります。ユーザーのさまざまなお気に入りのオーディオリファレンスマテリアルに合わせて、調整と視聴を徐々に行うことを推奨します。

S Seriesに搭載された最先端のDSPエンジンは、包括的なボイシングのオプションを提供しています。モニターの背面パネルにある回転式エンコーダーとOLEDディスプレイを通じて、全体的な出力レベルを制御することができ、出力に2種類のシェルビングフィルター [低域に一つ、高域にもう一つ] を適用することができます。さらに6つあるEQ制御では、Qの可変、中心周波数とゲインを含む包括的なパラメーター設定が可能で、ディスプレイとエンコーダーのインターフェースを通じてダイアルアップすることにより、特定の周波数でのレベルのブーストとカットが可能です。

ボイシングおよびEQのプリセットの保存が可能な5つのメモリも提供されています。ほとんどのS Seriesのモデルでは、これらのうち2つが工場出荷時設定で変更不可能になっています。残りの3つに対しては、ユーザー独自のボイシングプリセットを保存できます。S3Hでは状況が若干異なります。変更不可能なADAM Audioの工場出荷時設定が最初の3つのプリセットに適用されており、最後の2つのプリセットでユーザーのプリセットを保存することができます。3つ目のメモリ「Classic」は、おそらくADAM Audio製品の中でも最も有名なモニターで高評価を得ているS3Aの軸上周波数特性をエミュレートします。

もちろん、ボイシングの調整をまったく実行したくない場合は、いわゆる「Pure」プリセットを選択することにより、EQの設定を「Flat」状態のままにしておくオプションもあります。この場合ブーストもカットもされません。

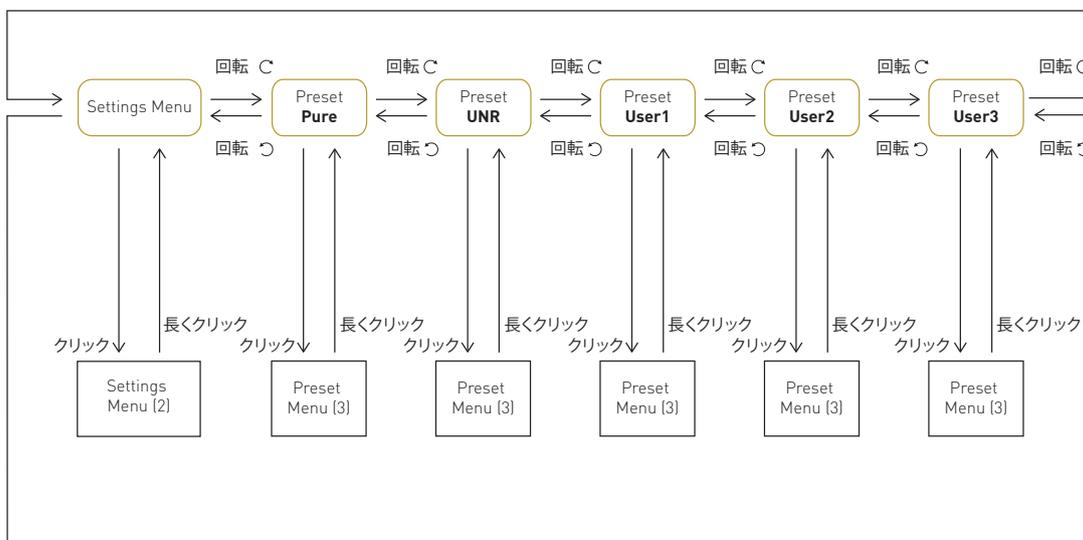
8.S SERIESのDSP機能詳細

前のページに記載したS3Hの追加「Classic」ボイシングプリセットを例外として、すべてのS SeriesモデルにおけるDSPは同じです。それぞれのプリセットは、背面パネルのOLEDディスプレイ上にネスティングされたメニューから、その横にある回転式エンコーダー／ボタンを使って機能にアクセスすることができます。

8.1 ナビゲーションとパラメータの変更

S SeriesのDSPインターフェースでは一貫して、エンコーダーを軽くタッピングするとメニュー構造内で下に (DOWN) 移動できます [または、後述するようにパラメータの選択が確定されます]。一方で、エンコーダーをクリックして0.5秒以上押し続けたままの状態にすると、ネスティングされたレベルでUP (上) 方向に移動できます。

スピーカーをオンにすると、一般的なシステム全体のSettings (設定) メニューのヘッダーがディスプレイ上に表示されます。「設定 (Settings)」が表示されている間にエンコーダーをタップすると、設定メニュー内の個別のオプションのリストに移動します。これについては後述します。その代わりに、「Settings」が表示されている間に単にエンコーダーを回転させると、設定メニューが閉じ、番号が付けられたボイシング/EQプリセット1～5の見出しが表示されます。[ディスプレイで「Preset 5」に達した後にエンコーダーをもう一度動かすと、モニターに電源を入れたときに表示された元の「Settings」メニューの見出しに戻ります。ボイシングプリセットの個別のパラメータは、下位メニューにあるそれらのプリセットに移動することで表示できます [そしてユーザープリセットの場合は編集できます]。例えばPreset 4にアクセスするには、ディスプレイ上に「Preset 4」と表示されるまでエンコーダーを動かし、エンコーダーをタップしてそのプリセットを有効化し、パラメータを表示させることで変更が可能になります。

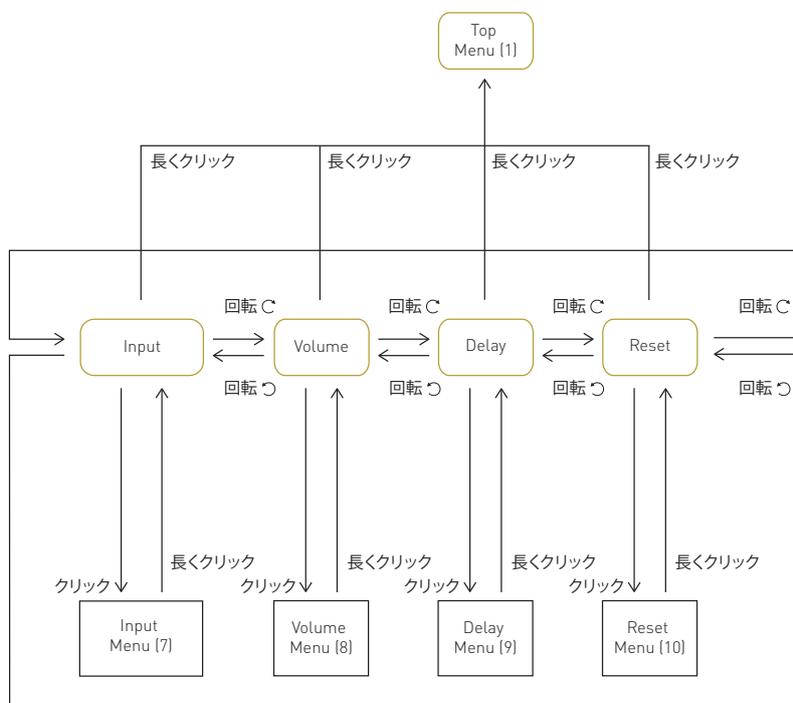


最上位メニュー [1]:S Series DSPモジュールで最も上位のメニューで、Settings Menu (設定メニュー) および5つのEQプリセットにアクセスできます。

DSPユーザーインターフェースでは一貫して、特定のパラメータで選択した値を確定したい場合は、回転式エンコーダーをもう一回タップすると新たな値が保存されます。すると短時間小さな星印がディスプレイ上部に表示され、変更がメモリーに書き込まれたことを確認します。新しい値を保存する前にエンコーダーを半秒以上長押しすると、現在選択されているパラメータの編集画面を閉じることを希望しているとみなされるため、ディスプレイには、パラメータが以前保存された値に戻された旨が表示されます。そのため、満足のいくパラメータの調整が済んだら、次の操作に進む前に、エンコーダーを軽くタップして変更を保存することを忘れないでください。そして、ディスプレイ上部に変更が保存されたことを示す星印が表示されたことを確認してください。

8.2 設定メニュー

上述したように、ディスプレイに「Settings」と表示中に回転式エンコーダーをタップすると、S Seriesの最も重要なシステム設定にアクセスすることができますが、その順序は次のようになっています：モニターへの入力の選択 [すなわちアナログかデジタルAES3か]、全体のVolume（出力音量）およびDelay（システムディレイ）。また、Factory Reset（工場出荷時の設定にリセット）するオプションもあります。この場合も、例えばVolume（音量）などの希望のオプションがディスプレイに表示されたら、エンコーダーをタップするとそのオプションに関するパラメータが変更可能な状態になり、エンコーダーを回転させることで値を変更することができます。当然、VolumeやDelayの場合のように、システム設定につき変更可能なパラメータが1つしかない場合もあります。



Settings（設定）メニュー [2]:この設定メニューにはInput（入力）、Volume（音量）、Delay（遅延）とReset（リセット）のオプションがあります。

入力タイプの選択

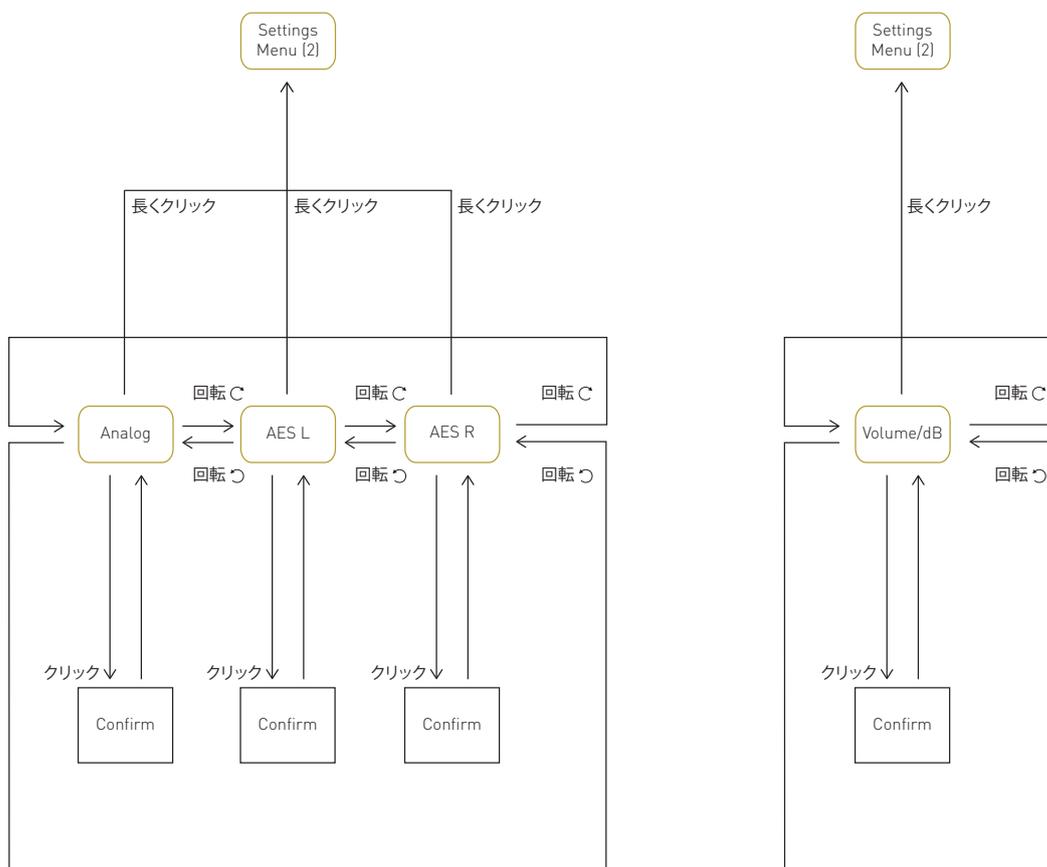
S Seriesのすべてのモデルでは、従来型のアナログ入力に加えてAES3デジタル入力が可能です。この設定では、「Analog」と「AES L」および「AES R」の中から現在有効にする入力方法を選択することができます。最後の2つの設定では、AESデジタル入力による「デジチェーン」式の構成で運用する場合に、どのスピーカーを左と右に設定するかを定義することができます [下図を参照]。

AES3の設定



Volume

モニターの全体的な出力レベルは、-60 から+12dBの間で0.1dB単位で調節できます。



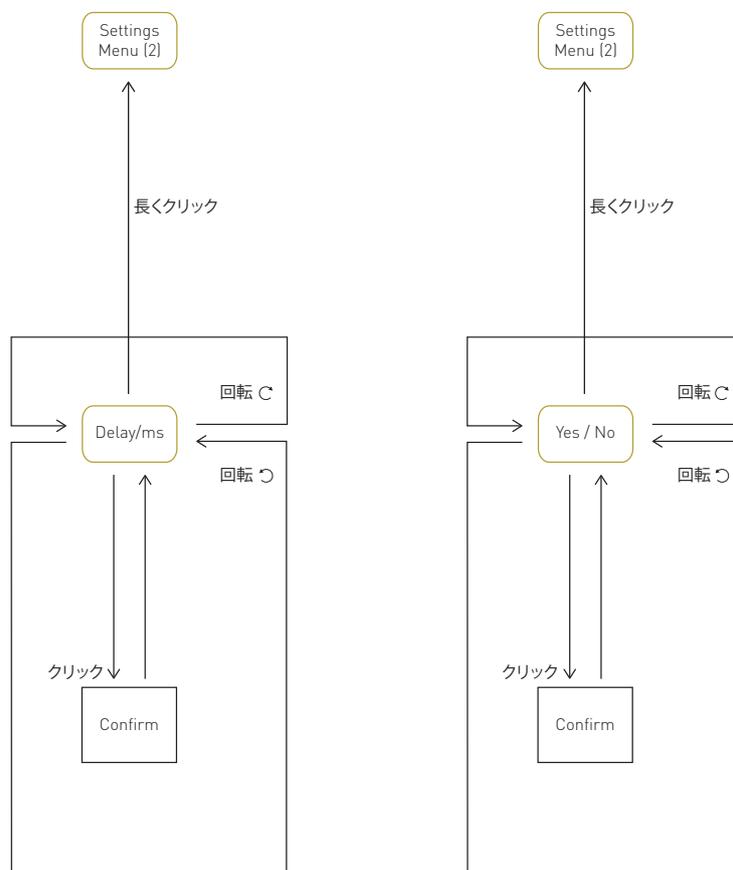
Input Selection (入力の選択) メニュー [7, 左] とVolume (音量) メニュー [8, 右]。

ディレイ

モニターの出力は5ms秒まで遅延させることができ、その調整は0.1ms単位で行うことができます。これは、レイテンシーや、録音やモニタリング環境におけるその他の遅延を補正する場合に役立ちます。

Factory Reset (工場出荷時の設定に復元)

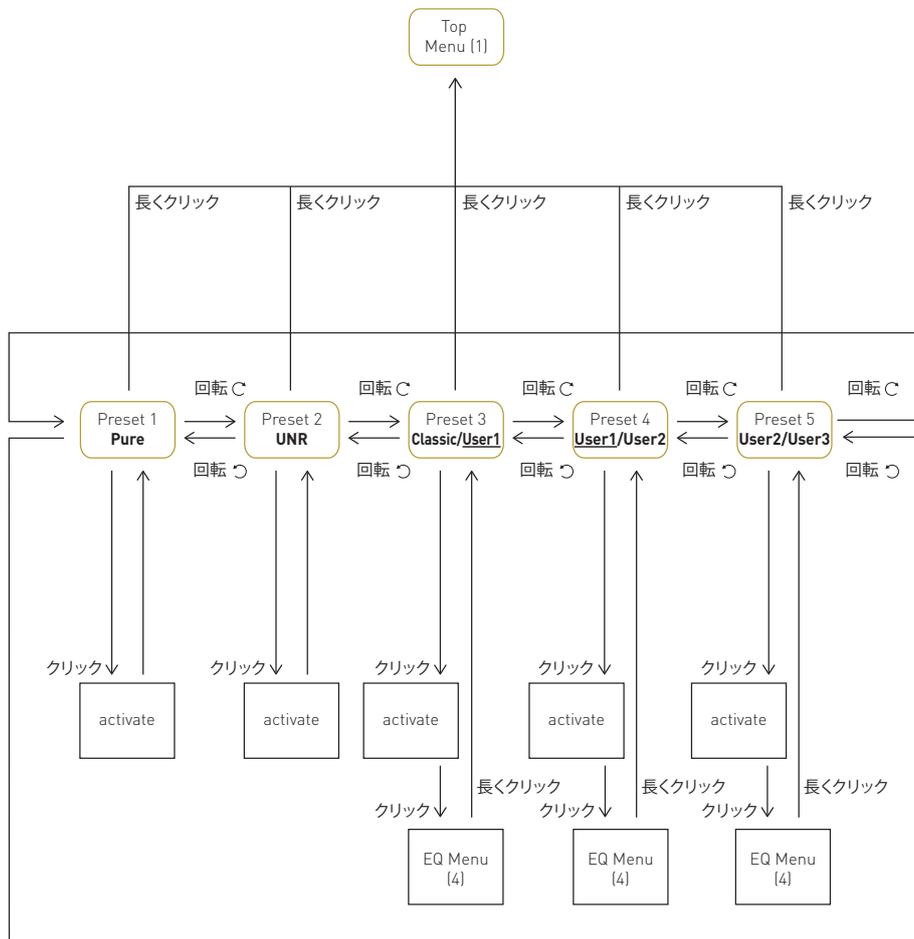
Settingsメニューの最後のアイテムはReset (リセット) オプションです。ここには「Yes」と「No」の2つのオプションがあり、エンコーダーを回転させると選択内容が交互に変わります。「Yes」の表示中にエンコーダーをタップすると、モニター内のすべてのパラメータが元の工場出荷時の設定に復元されます。



Delay (ディレイ) メニュー [9、左] とReset (リセット) メニュー [10、右]。

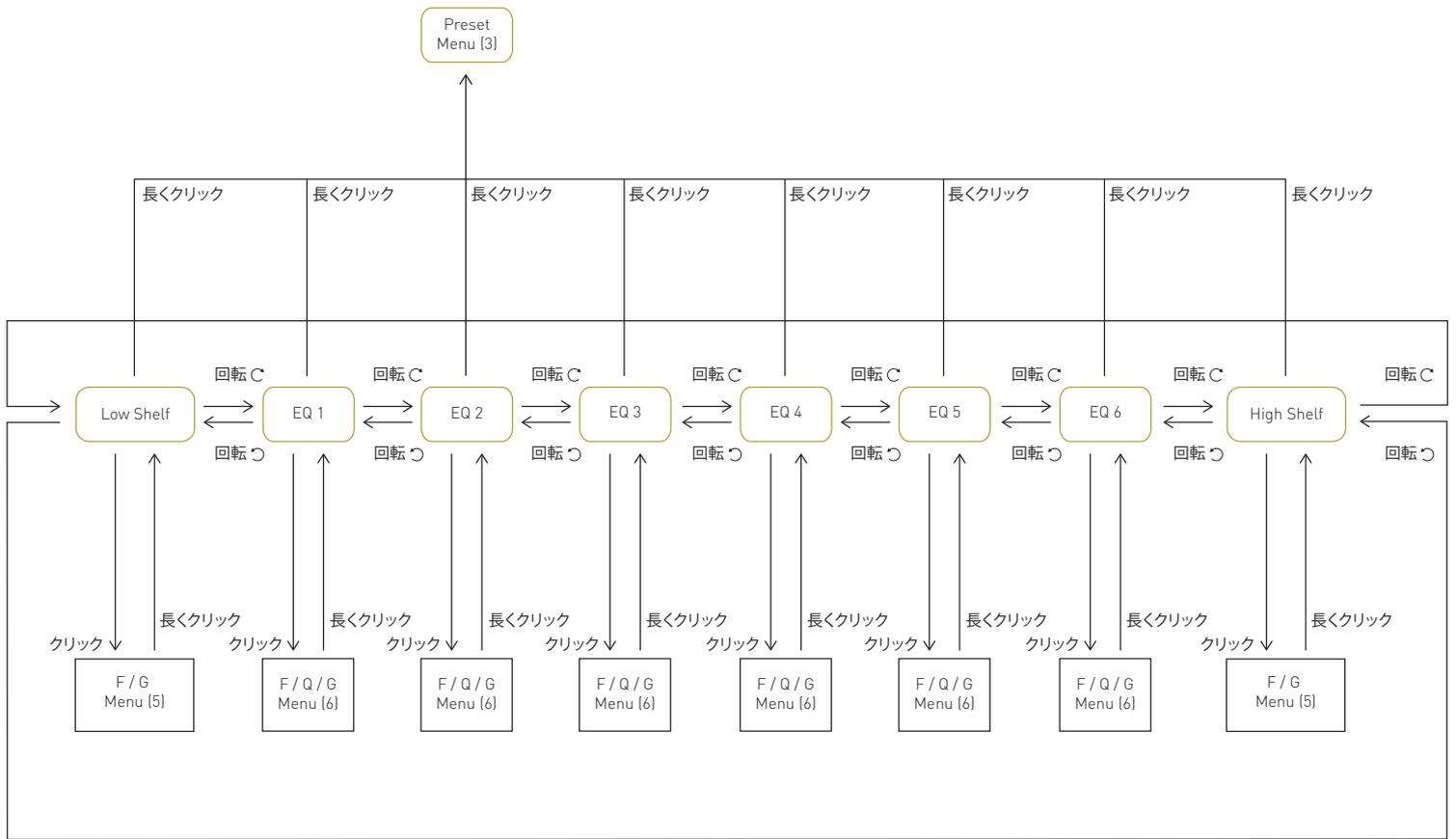
8.3 ボイシングのプリセット

前述したように、電源をオンにした後、ディスプレイに「Settings」と表示されている間にエンコーダーを回転させると、表示内容がSettingsメニューから離れてモニターの5つのボイシングプリセットになります。11ページの説明にあるように、S Seriesの全モデルでは、最初の2つは工場出荷時のプリセットです。最初の「Pure」はきわめて正確なADAM Audioの工場出荷時設定の応答特性です。「UNR」[Uniform Natural Response™] と称する2つ目のプリセットは、ADAM Audio独自の設計による、ダイナミックで自然なサウンドを提供する応答曲線です。前述の通りS3Hでは、3つ目のプリセットはクラシックなS3Aモニターの特徴をエミュレートし、最後の2つのメモリーはユーザーによる自由な変更が可能です。S3H以外のS Seriesの他のモデルでは、最後の3つのメモリーはすべてユーザーによる変更が可能になっています。

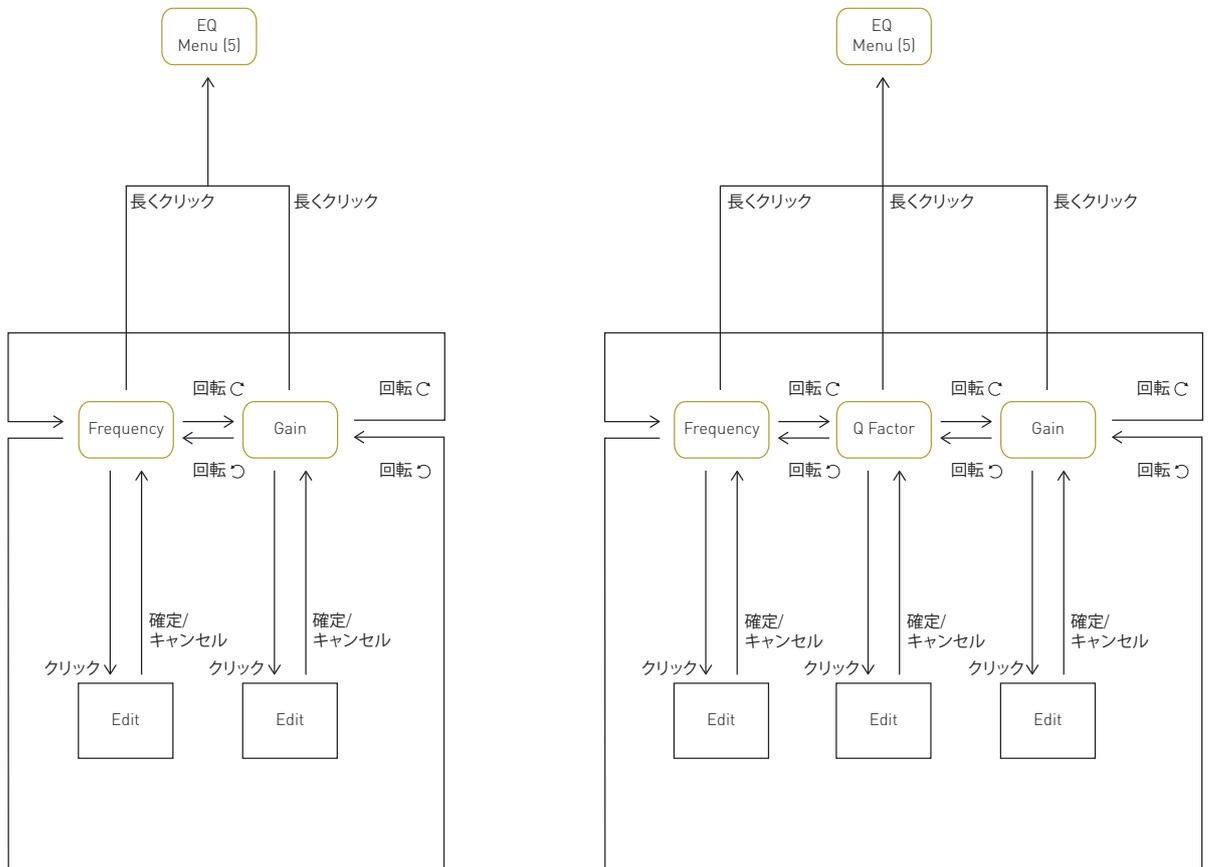


Preset (プリセット) メニュー [3]:EQ Preset 選択メニュー。Preset 3はS3HではS3Aをエミュレートする「Classic」プリセットですが、他のすべてのS Seriesモデルでは、User Preset 1であることにご注意ください。

いずれかのプリセットがディスプレイに表示されている時にエンコーダーをタップすると、そのプリセットが有効になります。エンコーダーをもう一度タップすると、そのプリセットの特定のEQ設定を調節できる次の下層メニューにアクセスすることができます。このレベルでエンコーダーを回すと、低域のシェルビングフィルター、6つあるパラメータによるEQ [論理的にEQ1、EQ2のように番号づけされています]、最後に高域のシェルビングフィルタが順に表示されます。これらのフィルターのいずれかを選択すると、メニューインターフェースの最下位に移動され、各フィルターの個別のパラメータを変更することができます。いずれかのシェルビングフィルターを選択すると、HzとGain [BoostまたはCut] でのコーナー周波数の設定オプションが開き、0.5dB単位で-12から+12dBの間でキャリブレーションを行えるようになります。当然、6つあるパラメータによるEQ設定を選択する場合には、ターンオーバー周波数とゲインの設定に加えてQ [帯域幅] の設定もあります。通常通りに満足のいくようにこれらのパラメータが設定した後、回転式エンコーダーを押すと、選択された設定が保存されます [それに伴いディスプレイ上部に星印が短時間表示されます]。また、エンコーダーを短時間長押しすると、メニュー階層内で1つ上のレベルに移動されます。



EQ メニュー [4]:これは、ユーザーが2種類のシェルビングと6種類のパラメータによるEQにアクセスすることができます。この図ではFはFrequency (周波数)、GはGain (ゲイン) を、そしてQはパラメータによるEQのQ値を表しています。



Shelving EQメニュー [5, 左]とParametric EQメニュー [6, 右] の模式図。

最後に、これらのDSP設定を調節するのに、物理的にモニター背部のパネルを使う必要はないことに留意してください。モニター入力の横にあるUSB接続を使用すれば、S SeriesのモニターをMacかPCに接続し、ADAM Audioのウェブサイト [www.adam-audio.com] からダウンロード可能な編集用ソフトウェアを使ってスピーカー設定に変更を加えることができます。このオプションは、通常モニターの背面にアクセスすることができない、S Seriesモニターの天井への取り付けをご希望のユーザーにとって特に便利です。

9.トラブルシューティング

信号の損失、望ましくない干渉やノイズなど、モニターに何らかの支障が生じた場合は、ADAM Audioの担当チームやお近くの代理店に連絡する前に次の基本的なチェック項目を確認してみる価値があります。

→ **スピーカーからいかなる信号も出力されていない場合や、歪んだ信号しか出力されていない場合:**

- A) 問題箇所を突きとめます。すべてのスピーカーで同様に信号損失や信号の歪みの現象が生じている場合は、問題が音源に起因している可能性がより大きいです。一方で、単一のスピーカーのみに影響が及んでいる場合は、問題はその特定のスピーカーにある可能性が大きいです。
- B) 支障なく機能しているものと交換することにより、配線やケーブルを点検してみてください。ケーブルが2本しかない場合は、ケーブルを交換した場合に支障が生じるスピーカーが変わるかどうかを試してみてください。その場合は、問題がケーブルに起因している可能性が高くなります。
- C) スピーカーを可能な限り音源に直接接続することで、信号源を点検してください。ミキサーやプロセッサなど、信号経路において通常はスピーカーよりも前に接続されている別のコンポーネントに支障が存在する可能性がありますか？

→ **スピーカーから信号が出力されているものの、ブンブンと鳴る音やハミング、パチパチ音などの不定期に生じる望ましくないノイズによる影響を受けている場合:**

- A) 上述の方法に従って、可能な場合はケーブルを交換したり取り替え、支障部位がそれに左右されるかを確認することにより、ケーブルを点検します。
- B) 問題の原因となりうる電磁干渉源がスピーカー付近にないことを確認します [携帯電話、ワイヤレスルーター、電源、電気モーター、電気ヒーターなど]。

上記のいずれの方法でも原因を特定できない場合は、スピーカーが不良である可能性があります。その場合はADAM Audioかお近くの代理店／販売店にお問い合わせください [リストは www.adam-audio.com を参照してください]。

10.メンテナンス

- モニターの掃除をする場合は、その前に電源を切ってください。
- スピーカードライバーによりかなりの電磁場が発生することにご注意ください。磁気的に敏感な物は少なくとも0.5m [20インチ] 以上離すようにしてください。
- キャビネットにはいかなる液体も入らないようにしてください。清掃に濡らした布は使用しないでください。また、スピーカーの近くで洗浄液を噴霧しないでください。
- 可燃性または酸性の化学品は洗浄用に使用しないでください。
- 可能な場合は、スピーカーのコーンに触れないでください [掃除するには非常に柔らかいブラシを使って軽くほこりを払ってください]。
- 一般的な掃除には、糸くずのでない湿った [濡れたものではない] 布を使用することをお勧めします。

11.輸送

修理のためモニターを郵送する必要がある場合に備えて、可能であればスピーカーのパッケージを保管しておくことをお勧めします。オリジナルの梱包材がない場合、損傷なしに輸送されるようスピーカーを保護することがきわめて困難になります。不適切な梱包材が使用されたことに起因するスピーカーの輸送中の損傷に対し、弊社は責任を負うことができません。

12.環境情報

すべてのADAM Audio製品は、電気・電子機器における有害物質使用制限 [RoHS] および電気・電子機器廃棄物 [WEEE] の処分に関する国際的な指令に準拠しています。

弊社ではS Seriesのスピーカーを長年ご愛用いただけるようお願いしておりますが、どうしても処分せざるを得なくなった際には、安全な廃棄方法についてお住まいの地域の地方自治体にご相談ください。

13.EU適合宣言

弊社、ADAM Audio GmbH (Rudower Chaussee 50, 12489 Berlin) Germanyを登録事務所とする) は、弊社単独の責任で、下記の製品について以下を宣言いたします：
S2V、S3H、S3V、S5H、S5Vが電磁環境両立性 [EMC] に関するEU指令89/336/EECに準拠していること、ならびにその履行において下記の基準が適用されていること：

EN 55032 (EN 61000-3-2/3を含む)、EN 55103-2。



また、EU一般製品安全指令2001/95/ECに準拠し、その履行において以下の基準が適用されていること：S2V EN60065 7th.ED A1 A2

この宣言は、製造プロセスの品質管理と製品のドキュメンテーションが、継続的なコンプライアンス保証の必要性に合致している旨を証言するものです。ユーザーは、本機器の使用に関して本取扱説明書内に特別な措置が記載されていないかどうか、よくご注意ください。

Christian Hellinger

代表取締役社長、ADAM Audio GmbH

14.保証条件

- この保証は、ディーラーや全国的販売業者に対する国内／地域法に定められる義務を補完するものであり、お客様としてのユーザーの法的権利には影響しません。
- 本保証では、他の輸送コストも、その他のいかなるコスト、ならびに製品の取り外し、輸送および据え付けに関するいかなるリスクもカバーされません。
- シリアル番号が変更、削除または判読不能な状態にされた製品は、本保証の対象外となります。
- 正規保証の期間は2年間で、購入日から有効になります。www.adam-audio.com/en/my-adam/を通じて行う製品登録では、登録された製品に対し、その受益者に追加で3年間 [36ヶ月] の保証が付与されます。
- この保証は、購入時の材料や出来栄えにおける欠陥以外の場合は適用されず、次のような場合にも適用されません：
 - a 不適切な据え置きや接続、梱包、
 - b 本取扱説明書に記載されたたただし使用以外の方法によって生じた損傷、
 - c 不良または不適切な付属品によって生じた損傷、
 - d 認可を受けていない人物により修理がなされた、または変更が加えられた場合、
 - e 事故や雷、水、火、熱、暴動、その他、ADAM Audioの合理的な制御能力を超える何らかの原因によって生じた損傷。

保証による修理を受ける方法

修理が必要となった場合は、製品をお買い求めになったADAM Audio取扱販売店に連絡してください。

購入された国以外で本製品を使用されている場合は、本製品の所有者に海外への郵送費を負担していただくことになります。

サービスは、お住まいの国のADAM Audioの全国的販売業者によって提供される場合があります。その場合、修理費用は本製品の所有者にお支払いいただく必要がありますが、修理または交換の対象となる部品の費用は無償で提供されます。お近くの代理店の連絡先情報を入力するには、弊社ウェブサイト www.adam-audio.com にアクセスしてください。

保証の認証を行うには、購入日が記載された元の売上請求書の写しが必要です。

15.技術データ

	S2V	S3V	S3H	S5V	S5H
ELE™ ウーファー					
個数	1	1	2	1	2
直径	182 mm [7"]	223 mm [9"]	182 mm [7"]	320 mm [12"]	223 mm [10"]
ボイスコイル径	39 mm [1.5"]	50 mm [2"]	39 mm [1.5"]	76 mm [3"]	76 mm [3"]
ダイアフラム 材質	HexaCone	HexaCone	HexaCone	HexaCone	HexaCone
DCH™ ミッドレンジ					
個数		1	1	1	1
直径		100 mm [4"]	100 mm [4"]	100 mm [4"]	100 mm [4"]
ボイスコイル径		60 mm [2.4"]	60 mm [2.4"]	60 mm [2.4"]	60 mm [2.4"]
ダイアフラム 材質		炭素複合材	炭素複合材	炭素複合材	炭素複合材
ツイーター					
個数	1	1	1	1	1
タイプ	S-ART	S-ART	S-ART	S-ART	S-ART
ダイアフラム面積	4 in ² [2420 mm ²]				
同等ダイアフラム直径	56 mm [2.2"]				
速度変換比率	4:1	4:1	4:1	4:1	4:1
ダイアフラム重量	0.17 g				
内蔵アンプ					
ウーファー	1	1	2	1	2
タイプ	クラスD	クラスD	クラスD	クラスD	クラスD
出力	300 W	500 W	500 W [×2]	700 W	700 W [×2]
ミッドレンジ		1	1	1	1
タイプ		クラスD	クラスD	クラスD	クラスD
出力		300 W	300 W	300 W	300 W
ツイーター	1	1	1	1	1
タイプ	クラスA/B	クラスA/B	クラスA/B	クラスD	クラスD
出力	50 W	50 W	50 W	100 W	100 W

	S2V	S3V	S3H	S5V	S5H
コントロール					
入力感度	調整可	調整可	調整可	調整可	調整可
パラメトリックEQ	6×	6×	6×	6×	6×
高域シェルピング 音場補正EQ	1x	1x	1x	1x	1x
低域シェルピング 音場補正EQ	1x	1x	1x	1x	1x
プリセット メモリー	5×	5×	5×	5×	5×
ディレイ	0~5ms	0~5ms	0~5ms	0~5ms	0~5ms
入力コネクタ					
アナログ入力	XLR	XLR	XLR	XLR	XLR
入力 インピーダンス	48kΩ	48kΩ	48kΩ	48kΩ	48kΩ
最大入力レベル	+24 dBu				
デジタル入力	AES3	AES3	AES3	AES3	AES3
一般データ					
周波数 特性	35 Hz~ 50 kHz	32 Hz~ 50 kHz	32 Hz~ 50 kHz	26 Hz~ 50 kHz	24 Hz~ 50 kHz
THD > 100 Hz	<0.4%	<0.4%	<0.4%	<0,3%	<0,3%
最大SPL@1m (ペア)	≥ 120 dB	≥ 124 dB	≥ 126 dB	≥ 128 dB	≥ 131 dB
クロスオーバー 周波数	3kHz	250 Hz / 3kHz	250 Hz / 3kHz	250 Hz / 3kHz	250 Hz / 3kHz
重量	11.0 kg / 24.2 lb	25.0kg / 55.0 lb	26.6 kg / 58.6 lb	52 kg / 114.5 lb	72.6 kg / 160 lb
寸法 高さ × 幅 × 奥行	346 × 222 × 338 mm	536 x 293 x 380 mm	280 x 585 x 380 mm	698 x 390 x 520 mm	430 × 885 × 500 mm

注意:この機器は試験により、FCC規則パート15に準拠し、クラスAデジタルデバイスの制限に適合していることが確認されました。

これらの制限は、機器が商業環境で運用される際に、有害な干渉に対し妥当な保護を提供するためのものです。この機器は無線周波エネルギーを生成、利用するほか、それを放射することができ、取扱説明書に従って使用しないと無線通信に有害な干渉を引き起こす可能性があります。この機器を住宅地で使用する場合、有害な干渉を引き起こす可能性があるため、ユーザーは自己負担でそのような干渉を是正することが求められます。

ADAM AUDIO GMBH

BERLIN, GERMANY

電話 +49 30-863 00 97-0

ファックス +49 30-863 00 97-7

INFO@ADAM-AUDIO.COM

ADAM AUDIO UK LTD.

Eメール :UK-INFO@ADAM-AUDIO.COM

ADAM AUDIO USA INC.

Eメール :USA-INFO@ADAM-AUDIO.COM

S Series取扱説明書 © ADAM Audio GmbH 2018

本取扱説明書に記載された情報の正確性には万全を期しておりますが、ADAM Audio GmbHは間違いや不作為については責任を負うことはできませんのでご了承ください。

WWW.ADAM-AUDIO.COM

